

受賞者のその後の取組（平成 29 年現在）

平成22年度 文部科学大臣賞 受賞	受賞者名	山梨県立わかば支援学校 高等部
	所在地	山梨県南アルプス市
	受賞テーマ	最後まで一生懸命頑張ることができる人になろう！ ーペットボトル、空き缶、牛乳パックのリサイクル活動ー
	1. 活動継続 あり	受賞当時は空き缶、ペットボトルの回収、洗浄、分別、潰しを行っていたが、校舎改築に伴う保管スペースの減少により、現在はアルミ缶のみを回収している。回収した缶を洗浄後潰し、回収業者に搬出する活動は継続して行っている。
		
	2. 活動の広がり あり	保管スペースの減少とメンバーの入れ替わりに伴い、給食の牛乳パックを開き、業者に出している。新聞紙を使った紙薪作りにも取り組んだが、販路が少ないため現在は行っていない。平成29年度は紙すきにも取り組む予定で、葉、コースターなどを作成する計画。
		
	3. 活動の進化 特になし	
	4. 今後の計画	平成29年度はアルミ缶の作業と共に、紙すきにも取り組み、葉、コースターなどを作成する。社会福祉村まつりにて地域の方々に販売する予定。

(次頁に表彰概要掲載)

【表彰概要】

同校では、平成7年度に高等部の作業学習「軽作業班」の中で空き缶のリサイクル活動を開始。当初は、業者が持ってきた空き缶を洗って潰し、アルミとスチールに分別する作業を行っていた。

平成11年度に作業班の名称を「リサイクル班」に変更して、空き缶の他にペットボトルもリサイクルするようになった。また、学校にリサイクルボックスを設置することで、リサイクル班の班員だけでなく、学校職員や生徒のリサイクル活動に対する意識も高まった。さらに平成16年度から牛乳パックの回収による紙の再生に取り組んだ。

平成19年には、NPO法人南アルプス共和国の協力でエコキャップ運動を開始した。ペットボトルのキャップ800個がポリオワクチン1個と交換できることを知り、活動内容が実感でき、生徒と教職員の意欲が高まり、活動の活性化につながった。また、リサイクルセンター等への校外学習を行い、自分達が汗を流してリサイクルしたペットボトルや空き缶がどう処理されていくのかについても学習している。

毎年、地域で開催される「福祉村まつり」に出展し、ペットボトルのラベルはがしと缶つぶしを生徒が実演しながら、来場者にも体験していただいている。生徒にとって、作業を多くの人に「見てもらう」「知ってもらう」という目的意識をもって活動する機会となっており、また、来場者への意識啓発にもつながっている。

知的障害のある支援学校での取り組みで、生徒一人ひとりが持てる力でリサイクル活動に取り組み、環境への興味・関心をもち、社会とのつながりや社会の一員であることを認識できる機会となっている。



ペットボトルのラベルはがし作業



牛乳パックの切り開き作業



福祉村まつりでのリサイクル班の活動紹介



ペットボトルキャップの引き渡し